

消防学校 ニュース



令和7年10月号

初任科 実科査閲

～訓練の成果を披露する晴れ舞台～

初任科（第96期）138人は、消防職員として必要な知識・技術を習得するため、寮生活を送りながら約6か月間（令和7年4月7日～9月26日）の厳しい教育訓練を受けてきました。

その集大成として、訓練成果を確認・披露するため、9月10日（水）に各種訓練の査閲を実施しました。初任科生は、学校長、各消防本部消防長、そして御家族等に消防学校で培った全てを余すことなく披露しました。初任科生は皆、必死に声を出し、仲間と協力し、今できる精一杯の動きをしてくれました。実科査閲を通じて、初任科生の成長を感じていただけたと思います。

【実科査閲次第】

- | | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 開 会 | 13:00 |
| 2 | 訓練開始 | 13:20 |
| | 訓練礼式 | |
| | 機器取扱訓練 | |
| | 消防活動訓練 | |
| | 消防活動応用訓練 | |
| | 救助訓練 | |
| | 一斉放水 | |
| 3 | 閉 会 | 16:00 |



学 生 入 場



学校長挨拶



滝静岡県危機管理監代理挨拶



成澤静岡県消防長会会長挨拶



【開 式】



【訓練礼式】



【機器取扱訓練】



【消防活動訓練】



【消防活動応用訓練】



【救助訓練】



【一斉放水】

(担当教官コメント)

初任科（第96期）実科査閲は、消防職員として必要な気力、体力及び精神力の向上や、一般的な消防活動に対応するために必要な知識、技術等の習熟度を確保するとともに、学生主体の企画・運営を通して消防人としての責任感・判断力の向上を図ることを目的に実施しました。

各実科班は、27～28人の学生と安全管理を担う担当教官で編成され、班長と副班長を中心に、ナレーションを含めた訓練概要を組み立てました。自分たちで検討し構成した訓練に修正を加えながら、より安全・確実・迅速な活動を目指して訓練を重ねてきました。この期間中、連日の猛暑となりましたが、熱中症対策を万全に行い、準備を進めてきました。

実科査閲当日は、来賓に加え、御家族にもご来場いただき、来場者数は400人以上となりました。来賓と多数の御家族が見守られる中、今までにない熱気を帯びた訓練会場に、学生たちが入場しました。意識、表情、姿勢など、すべての動作が節度よく、一糸乱れぬ縦隊で、気迫あふれる連続呼称で入場する姿は、これから行われる訓練への期待感を更に高めました。

開会直後に行った訓練礼式では、全体での通常点検から始まり、規律と節度のある団体行動を披露しました。機器取扱訓練は基礎訓練で培った完成度の高い資器材取扱い、消防活動訓練は各隊連携のとれた迅速な消火活動、消防活動応用訓練は基礎技術を基にした実践的な訓練、救助訓練は安全管理を徹底した確実で迅速な救出を披露しました。最後は全学生による一斉放水が行われ、すべての来場者に学生たちの成長した姿を御覧いただきました。学生たちは半年間の厳しく、苦しく、つらい教育訓練を乗り越え、目標としていた一つの訓練をやりきった達成感を味わっているようでした。訓練内容を学生自身が考え、そして教官と共に実科査閲訓練を作り上げた経験は、今後の消防人生に必ず活きてくると思います。

訓練をやりきった達成感と充実感に満ちあふれた学生たちは皆、とても清々しい表情をしていました。その光景は、今でも忘れません。

教務課 主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

初任科修了式

～消防学校からの旅立ち～

9月26日（金）に修了式が執り行われました。

今期は観測史上最も暑い夏となり、熱中症警戒アラートが発表される高温環境下での厳しい訓練が何日も続けました。過酷な状況が続いても、学生たちは共に協力し、励まし助け合いながら日々の訓練を乗り越えました。教育時間 801 時間、教育日数 115 日に及ぶ初任教育は、学生たちにとって今までの人生で最大の変化を遂げるきっかけになったことでしょう。

【修了式次第】

- 一. 開式の辞
- 一. 国旗に対する敬礼
- 一. 国歌斉唱
- 一. 消防殉職者に対する黙祷
- 一. 修了生氏名発表
- 一. 修了証書授与
- 一. 表彰
- 一. 消防学校長式辞
- 一. 静岡県危機管理監祝辞
- 一. 静岡県消防長会会長祝辞
- 一. 修了生代表答辞
- 一. 閉式の辞



学校長から修了生代表へ修了証書授与

表彰一覧

種 類	氏 名	所 属
静岡県危機管理監賞	山田 智大	静岡市消防局
静岡県消防長会会長賞	矢崎 裕大	掛川市消防本部
静岡県消防学校長賞	小笠原 一貴	御前崎市消防本部
	齋藤 響	駿東伊豆消防本部
	増田 飛委郎	静岡市消防局
精励賞	鈴木 暁大	下田消防本部
	佐藤 丈太郎	湖西市消防本部
	室伏 柑之介	富士市消防本部
	太田 唯斗	浜松市消防局
	西川 大暉	静岡市消防局
	望月 大輝	静岡市消防局
努力賞	大村 和巳	志太広域事務組合志太消防本部
	住吉 泰浩	富士宮市消防本部
	山本 大輔	湖西市消防本部
	岡部 将樹	静岡市消防局
	鈴木 春平	御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
	竹ノ内 翔	駿東伊豆消防本部
	真野 みなみ	静岡市消防局
体力賞	山本 大輔	湖西市消防本部
	西川 大暉	静岡市消防局

功労賞	西川 大暉	静岡市消防局
	山本 大輔	湖西市消防本部
	大村 和巳	志太広域事務組合志太消防本部
	塩山 朝日	静岡市消防局

【修了生代表 答辞】

残暑厳しい中にも、少しずつ秋の訪れを感じられる季節になりました。

本日は私たち初任科第96期138人のために、このような盛大な修了式を催していただき誠にありがとうございます。

また、ご多忙の中、ご臨席くださいましたご来賓の皆様には修了生一同心から感謝申し上げます。

この半年間、同じ目標に向かい切磋琢磨し、138人の仲間とともに消防士としての土台作りに励みました。

全ては、令和7年4月7日の入校式から始まりました。各所属のバスに乗り、期待と不安を胸に向かった静岡県消防学校。バスを降り、学校の敷地内に足を踏み入れた時、一気に緊張感が高まり全身に力が入ったのを覚えています。身だしなみ、動きの節度、一体感、声の大きさなどを指摘された入校入寮受付では、あまりの厳しさに心が折れそうになりました。入校からの一週間はやらなければならないこと、覚えなければいけないことが多く、不安と焦りからあつという間に終わってしまいました。そんな中で座学、訓練礼式、通常点検が始まり「服装の乱れは心の乱れ」「ルールを守る」「マナーを守る」といった当たり前のことができない私たちに対して教官方の喝が学校内に響き渡る毎日でした。入校当初から毎日実施される通常点検では、しわ、埃、靴の磨き残しなどに気を配らなくてはならず、慣れない実科訓練と併せて満身創痍な4月でした。

総代副総代が決まり、96期が一つの方向に向きかけた5月にコロナウイルスが蔓延。体が本調子にならない学生も多くいいスタートダッシュがきれいななか第一回野外訓練が実施されました。20キロ近い荷物を背負い浜石岳山頂を目指し歩きました。山道では、膝に手を置き苦しむ仲間がたくさん見られ、各班長、総代、副総代が全員で仲間を鼓舞し合いましたが多くのリタイア者を出し、任務中断を言い渡されました。改めて要救助者を救うためには、強靱な筋力、体力、そして精神力が大切なのだと思います。ただ悔しさだけが残りました。

6月に入ると応用的な訓練が始まりました。訓練中には暑さに耐え抜く体作りのため厳しい体力錬成も行われました。学生は皆、体力の無さ、心の弱さを痛感し、課外時間にも自主的に訓練に取り組みました。

7月には各所属に戻り実務研修が行われました。普段優しく話しかけてくれる先輩方が訓練や指令がかかるたびに気持ちを切り替え、緊張感が増すのを肌で感じました。「訓練に対する姿勢」「人を助ける」とはどういうことなのか、そして「消防士を目指した理由」を見つめ直す貴重な時間になりました。

8月に入り、厳しい猛暑が続く中、第二回野外訓練が始まりました。第一回野外訓練での悔しさを全員が忘れることなく、富士マリンプールのスタートラインに立ちました。全体目標である「精神一到 全員完歩」を達成するために、第一回の失敗が嘘だったかのように、仲間を励ます声、仲間を助ける学生が多く見られました。仲間のことを1番に思い助け合うことができ、強い絆を感じました。一部、二部、三部の訓練全てをやり抜き、大きく成長できたと思います。

9月、今までの集大成である96期実科査閲。息のあった訓練礼式、定着した基本技術を披露した機器取扱い訓練、模擬家屋を利用して消火活動を行った消防活動訓練、要救助者を迅速に救出した消防活動応用訓練、ロープ渡過や交通事故対応を行った救助訓練、最後の一斉放水では、旗を振り上げたとき、この半年間の様々な場面が頭に浮かび涙が止まりませんでした。すべての学生が練習の段階か

ら士気が高くやる気に満ちあふれ、今やれるすべてを出し切り、完全燃焼することができました。

全力で駆け抜けた半年間、これまでの人生の中で最も充実した内容の濃い時間でした。今では、汗や涙が染みこんだグラウンドも、みんなで駆け抜けた山道もすべてが愛おしく感じます。そして本日、初任科教育の修了を迎えます。辛い、苦しいことから逃げ出さず乗り越えることができたのは、お互いに真剣にぶつかり合い切磋琢磨してきた仲間達、常に厳しく接してくれた教官、そして家族の存在があったからだと思います。大好きな仲間達に出会えたこと、愛のある指導をしてくれた教官方、そして支えてくれた家族全てに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ほんとにありがとうございました。

「瀬を早み 岩にせかるる滝川の われても末に 逢はむとぞ思う」この詩の意味は、川の瀬の流れが早く、岩にせき止められ2つに分かれてしまうがまた1つになる様に今は別れてもいつかはきっと再会しようという意味です。各所属に行きそれぞれ進む道は違いますが心が折れそうな時、辛いときは仲間を頼り、仲間との日々を思い出し全員がかけることなく消防人生を全うしていきます。

96期は「苦しい、疲れた、もうやめたでは人の命は救えない」という言葉を胸に刻み、何度躓いても立ち上がりどれだけ時間が経とうとも初心を忘れず、仲間を決して見捨てず努力していきます。そして、国民の生命、身体及び財産を守れるように尽力していきます。

最後になりましたが、学校長をはじめ、教官方、職員の皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈りするとともに、静岡県消防学校の更なるご発展を祈念しまして答辞とさせていただきます。

令和七年九月二十六日
初任科第九十六期 修了生代表
静岡市消防局 西川 大暉

クラス担任から修了生へ修了証書授与



1 組



2 組



3 組



初任科担当教官から修了生たちへ

消防士を志し、本校に入校した138人。この学生達を半年間で、自身の安全を確保しながら職務を全うできる消防士に育成するために私が必要だと考えたことは「毅然とした厳しさ」を持って指導に当たることでした。現場活動の厳しさをしっかりと伝えるためには指導する側が気を緩めてはいけないと思い、教官ごとに指導の方向性がブレないように認識を共有するなどしながら、厳しい指導に徹しました。また、厳しさの中にもしっかりと愛情を持ち、時には学生の声に耳を傾け、その心に寄り添うように注意を払いました。ほとんどの学生が実災害を経験したことがないため、危険を伴う災害現場をイメージさせながら活動の困難性を伝えるのは簡単ではありませんでしたが、なぜこの訓練が必要なのかを十分に説明することを心掛け指導しました。基礎・基本の訓練を何度も実施し、消防士としての土台作りをするとともに、このくらいでいいだろうと甘さがあれば受傷事故に繋がることや、事前準備を怠ればいい結果は望めないことを繰り返し教示してきました。

知識や技術はもちろんのこと、所属に戻ってからどれだけ成長できるかは、その人間性が大きく影響すると思い、何事にも素直に、謙虚に、感謝の気持ちを持って一生懸命やる大切さも伝え続けました。一生懸命に取り組む姿は、見る人の心を動かします。そして、その努力は必ず誰かが見てくれています。組織の一員であることを常に意識し、組織の中で活躍するための努力を続けてください。結果として地域住民の安全で安心な生活を守ることに繋がります。それが、私たち消防職員が果たすべき職責です。

初任科で伝えなければならないことは、半年間ですべて伝えました。そして、厳しい初任教育を乗り越え、君たちは大きく成長することができました。その証拠に、入校式で出会った時の顔つきとは見違えるほどたくましい顔つきになりました。ただ、それは今後の消防人生を歩むための準備でしかありません。知識、技術、体力のどれをとってもまだまだ不足していて、今後、やるべき事は山のようにあります。消防職員である以上「訓練」に終わりはなく、学びをやめてはいけません。とにかく訓練や自己研鑽に励み、技術を錬磨し、知識を習得してください。そして、長い歳月を経てしっかりと成長し、次の世代を育成できる立派な消防職員になってもらいたいと思います。この初任科（第96期）で138人が一丸となって声を出し、精一杯走り抜いた「初心」を忘れずに、いつまでも仕事に対する情熱を持ち続けてくれたらうれしいです。

志高く、常に目標を持ってください。目標を立てたら、必ず達成させるために行動してください。自分の仕事に迷いが生じたり、上手くいかなくなったら、一人で抱え込まずに仲間を頼ってください。そして、今やるべきことは何かを見極め、それに集中してください。苦しいときこそ、「精神一到」でその困難を乗り越えてください。

君たちの今後の成長を心から期待しています。

教務課 主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

初任科(第96期)修了おめでとう!!

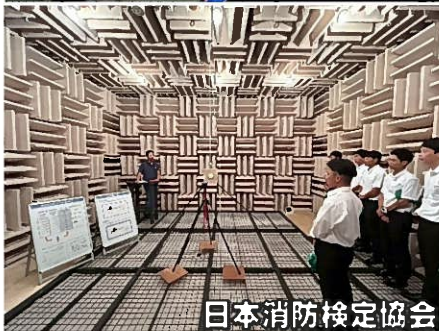


校外研修



東京消防庁 消防学校 屋外訓練場

9月18日(木)、19日(金)の2日間、初任科の校外研修を実施しました。東京臨海広域防災公園そなエリア東京、消防大学校、消防研究センター、日本消防検定協会、東京消防庁第三消防方面本部、東京消防庁 消防学校を視察させていただきました。



日本消防検定協会



東京消防庁 消防学校



東京消防庁 第三消防方面本部

(担当教官コメント)

まもなく初任科を修了する学生に、これから何を学んでほしいか考え研修先を決めました。まずは「防災」。大規模災害をリアルに体感できる施設として「そなエリア」を選びました。日頃の備えの大切さを、市民に実感してもらうためのヒントになったかと思います。

次に「将来」。成長した未来をイメージしてもらいたいと思い、消防大学校等の3機関に依頼しました。いつかは消防大学校で学びたい、他の消防機関に派遣される人材になりたい、そんな学生がでてきたら嬉しいです。

最後に「立ち振るまい」。最新の設備・資器材だけではなく、一流の消防士の立ち振るまいを感じてもらいたいと東京消防庁に依頼しました。職員の身だしなみ、落ち着いた話し方、自信に満ちた表情から、仕事への誇りと情熱を感じとってくれたかと思います。

未来の消防を担う、初任科第96期学生138人の今後の成長を期待しています。

この研修に携わっていただいた全ての皆様に、心から感謝申し上げます。

教務課主査 鈴木 敏弘 (富士市消防本部から派遣)

消防団員現場指揮課程（第 12 期）



入校式



重量物除去訓練



ドローン取扱訓練



火災防ぎょ訓練



消防活動訓練



破壊器具取扱訓練

9月28日（日）に消防団教育指揮幹部科現場指揮課程を開催し、県内消防団員82人の方が入校されました。本課程は、教育時間数が14時間と定められているため、一日の教育訓練で実施しきれない部分については、事前にeラーニングでの受講をしていただきました。

eラーニングでは、静岡県消防協会松浦会長の講話、静岡県土木防災課の水災害、静岡県砂防課の土砂災害、学校教官による安全管理及び多数傷病者対応を学習していただきました。

当日は、消防庁のドローン運用アドバイザーによるドローン取扱訓練、火災防ぎょ訓練、重量物除去、破壊機具取扱訓練、消防活動訓練、災害時における外国人支援についてなど様々な内容を学習していただきました。

（担当教官コメント）

参加された消防団員の方々におかれましては、貴重な休日での研修お疲れ様でした。当日の訓練に取り組む姿勢やアンケート結果を見て、地域防災力の向上にむけて真剣に考えておられる熱い気持ちが伝わってきました。

本課程の趣旨は、災害現場における指揮能力の向上です。eラーニングでは、災害現場で必要な知識の習得、警防・救助訓練では、資機材を安全に使用するための技術の習得、火災防ぎょ訓練では、状況把握、状況判断、決断、命令、実行、報告、評価の指揮サイクル及び情報共有の重要性を学びました。

本課程で学んだことを各所属に持ち帰っていただき、さらなる地域防災力の向上に努めていただければ幸いです。

教務課主査 都築 克典（静岡市消防局から派遣）

消防大学レポート



救急科第 87 期 入校期間 8 月 20 日（水）から 9 月 26 日（金）まで



多数傷病者訓練（図上）



多数傷病者訓練（実技）



ハイパフォーマンス CPR



技能管理・運営

救急科では、指導救命士としての必要な知識と技術修得が目標です。救命士として指導的、管理的な視点の内容であるメディカルコントロール、接遇、技能管理、病院実習等と、消防・救急活動の中でも課題が多い事項に対する内容であるハイパフォーマンス CPR や多数傷病者対応等を学ぶことができました。

特に、メディカルコントロール体制については、消防側と医療側がそれぞれの役割を相互に補完し合うような関係性であることが本来目指す姿であり、現場活動については消防主導で PDCA サイクルを回すための役割を指導救命士が担っていく必要があると感じました。また、多数傷病者対応は、全国どこの消防本部でも課題を抱えていることが多く、訓練方法や現場での対応を救急科の同期と共有することができました。

学んできたスキルや考え方を静岡県消防学校での教育に還元していきたいと思います。

教務課主査 浅井 光貴（袋井市森町広域行政組合袋井消防本部から派遣）

白鳥校長の一言（時事雑感）

台湾との交流

今年度も後半戦に入りました。初任科生がいた前期と違い、学校は専科教育を中心とした落ち着いた装いを見せています。こうした中で9月下旬から始まった「救助科」には、台湾・新竹市消防局5人の隊員が加わりました。

台湾の消防隊員を受け入れている消防学校としては、東京消防庁が知られていますが、本校のように正式な専科教育に参加している他の事例は、ほとんど耳にしません。

そもそも台湾の消防に日本の最新の救助技術が伝えられたのは、約20年前に遡るといいます。そのため救助技術のベースは日台共通しているが、それでも違いに驚くことが少なくないと聞く。その1つが救助の守備範囲だ。台湾では、ロープレスキューや車両事故、急流救助（水難事故対応）が救助の主な対象であるのに対し、日本では都市型搜索救助や航空救助など、より広範囲をカバーしているという。また訓練のやり方にも若干の違いがあるようだ。救助技術や訓練手法を学ぶことにとても貪欲だ。

10月中旬には、台湾内政部消防署（日本の総務省消防庁に相当）幹部が本県の消防・防災事情の視察にお越しになった。昨年4月に発生した台湾・花蓮地震はいまだ記憶に新しいが、こうした背景から本県の地震対策に多くを学びたいと語ってくれた。自らの災害から学び、その課題を克服するために、さらに学びチャレンジし続ける台湾の皆様の真摯な姿勢に心から敬意を表したい。

11月から始まる「警防科」にも、引き続き基隆市消防局の隊員を迎える。今後も様々な機会を通じて日台の交流を深めるとともに、消防技術のみならず地域防災力の充実に向け、お互い切磋琢磨していきたい。



台湾新竹市消防隊員:倒木伐採訓練



台湾新竹市消防隊員:車両破壊救助訓練



台湾内政部消防署幹部



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎: 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

